

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

書くこと部 研究主題

児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

第2学年国語科学習指導案

単元名 しょうかいします！ステキしょう☆

～友達のすてきなところについて、順序を考えて紹介する文章を書く～

日時：令和6年 2月16日(金) 5校時

児童：中野区立令和小学校 第2学年1組 34名

授業者：中野区立令和小学校 主任教諭 清水 絵里

1 単元の目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解して使うことができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- 自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って「中」の構成を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- 文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで文章を書き、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って「中」の構成を考えている。B(1)イ ②文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。B(1)エ	①友達のよいところを文章で紹介するために、事柄の順序を考える学習への見通しをもち、進んで書くとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級の児童は、国語科の学習への意欲は高い。話すこと・聞くことの学習では、司会役の児童が中心となって話し合いを進めることができるようになった。読むことの学習では、説明されていることを文章から正しく読みとったり、物語における登場人物の気持ちを叙述から想像したりすることができるようになった。一方で、書くことの学習に関しては得意な児童と苦手な児童に二極化している。

1年生からこれまでの書くことの学習において、様々な行事の出来事を文章で書き表した。生活科で育てている野菜の観察文や遠足で楽しかったことの記録文を順序よく書き、先生や友達に伝えてきた。6月の単元『こんなもの、見つけたよ』では、令和の小の新しい校舎を中野区の先生方に紹介する文章を書いた。この学習を通して、「始め・中・終わり」の構成で文章を書くことと伝わりやすくなることについて理解することができた。しかし、題材の設定や情報の収集や内容の検討はできても、構成については提示された文例通りに書き終えた児童が多く、集めた情報を伝えたい事柄の順序に沿って組み立てるなど、構成を考えて書く児童は少なかった。

そこで、書くことが苦手な児童は負担なく書くことができるように、得意な児童は構成を意識して書くことができるように、9月より、日直へ〈サンキューカード〉を書く活動を行ったり、日々の連絡帳に〈一言日記〉を書いたり、週末の出来事を日記帳に書いたりする活動を取り入れた。

また、〈言葉のたからばこ〉を掲示し、自分の思いに近い言葉をすぐに使うことができるようにした。この活動を通して、書くことへの抵抗感は徐々になくなってきている。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材－友達のすてきなところを紹介する文章－では、〈ステキ〉を伝えるための文章構成が主となる。構成には大きく2種類あると、本分科会は捉えている。

1つは、文章全体の構成である。既習内容を振り返り、情報を「始め－中－終わり」の3部で組み立てると、文章が読みやすく、伝えたいことが分かりやすくなることを確認した。

2つは、「中」の情報をどのような順で組み立てるかということである。今回の紹介する文章では、書き手が設定する「友達の〈ステキ〉」の具体を伝えるために、「中」を組み立てる。「中」で取り上げる事柄は、書き手児童の考える〈ステキ〉に基づいて選ばれ、「1つ目」「2つ目」といった言葉で順序性を示しながら伝える。書き手は、自分の考える〈ステキ〉とは、どういう事例に由来するのか、そして何故この順で伝えたいのかを明確にしながら、「中」を構成することになる。そして、最終的にその〈ステキ〉を自分なりの言葉で言い表していく。

本分科会は、これら、構成の検討に関わる一連の思考を通して、書き手児童が言葉による見方・考え方を働かせていくものと考えている。また、そうした認識を促すために、一次の第1時と第2時で既習内容を振り返って話し合い、確認した既習事項を盛り込みながら本単元の学習材となる文例の作成を児童と行った。

(3) 単元について（単元観）

本単元では、今まで学級で取り組んできた活動や学習を振り返り、「もっと友達のよいところ見付けたいな。」「自分が知っている、友達のすてきなところを紹介したいな。」という思いから、学級に向けて友達の〈ステキ〉を紹介する文章を書く。児童の日常生活との関連を図り、『友達のいいところを見付けよう』（道徳）『自分の成長を振り返ろう』（生活科）『今日のスターをしょうかいしよう』（特別活動－学級活動）といった、他教科の学習や活動と関連付けて取り組んでいる。そして、国語科の書くことにおいて、実生活で発見した友達のよいところに目を向けたり、友達に直接インタビューをする中で新たに発見したりしながら情報を集める。そして、題材となっている友達の、どこが〈ステキ〉だと感じたのかを伝えるために理由を考えながら「中」の順序を決めていく、構成を検討することとした。

単元のゴールでは、〈ステキしょう〉として、紹介する文章を賞状の形にまとめ、相手に渡す。この、〈ステキ〉を言葉で書かれた文章を受け取ることで、他者から見る自己のよさを知ることができ、「自分にはこういういいところがあるのか。」という自己認知に繋がると考えた。そこで、〈今日のスターをしょうかいしよう〉で活用している、〈ことばのたからばこ〉の充実した重点を置いて取り組んだ。これは、どんな言葉で友達のすてきな部分を紹介するかについて学級で話し合いながら増やしてきた、短冊型の掲示物である。これを、単元に入る前の意欲醸成や言葉を意識的に捉えて用いることを行う、〈0次〉として特に意識して取り組んだ。そうすることで、見付けたい友達のよさとは何か、どのような言葉で紹介したいかという観点を模索することにつながると同時に、言葉の用い方についての認識が深まると考えたからである。

この、文章における観点とは、「頑張り屋」「勇気がある」「親切」「元気がある」など、友達のすてきな部分を紹介するときに使うことができる言葉である。まず、紹介する相手にまつわる多様な情報を集める。集めた情報を文例やメモのモデルや構成表モデルを参考にしながら、何をどのような順序で書けば、読み手である学級の友達へ伝わる文章になるのか考えさせたい。そして、児童それぞれがゴールを意識しながら、自分の紹介する文章

や、書く活動への見通しをもって学習を進められるようにしたい。書いた文章は、賞状に仕上げて『ステキしょう発表会』の場で、友達に渡して読み合ったり、帯時間に発表したりする。読み手の友達が賞状をもらって喜ぶ姿を直接見ることは、「書いてよかった。」という充実感や「また書きたい。」という次への意欲に繋がると期待する。

4 書くこと部でとらえる「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

書くこと部では、「書くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を、単元における言語活動を通して、課題を解決する際に育む言葉への自覚であると捉えた。

その上で、書くことにおける「言葉による見方」とは、書きたいことを表現するために、語彙や文・文章、段落、文章全体に着目することと定義した。また、「言葉による考え方」とは、情報を整理する際の概念としての考え方（比較・類推・因果・分類／分解・抽象化・具体化・系統化・一般化）であると捉えた。さらに、書きたいことを見付けたり、書く対象を見つめ、表現したりすることとして、発想や着想を得ること、さらにそこから構想を練ることであると定義した。

書く活動においては、この「言葉による見方」と「言葉による考え方」とを行き来しながら、単元の目標を達成することを目指している。この行き来には、例えるならば「選択」「運用」「検討」「想像」等のような言語操作の場面が想定される。「選択」とは、どのような言葉を使うかを児童自身が吟味し、選ぶこと、「運用」とは、その言葉のもつ意味を確かめ、実際に使ってみること、「検討」とは、文脈において適切か考えたり、どのような意図でその言葉を使ったのかを推し量ったりすること、「想像」とは、その言葉を使ったときに読み手がどのような印象をもつかを考えること、である。

これらを複合的に体験することで、豊かな言語感覚を育成することが可能となると考える。豊かな言語感覚とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜・ニュアンスなどについての感覚のことである。

以上を踏まえ、獲得した言葉の力を単元内に留めることなく、教科横断的な視座で活用したり、自らの生活に活用したりする場をもったりすることで、児童一人一人の言語能力を向上させることができると考えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

本単元では、書き手の児童が経験したことから書くことを見つけ、伝えたいことを明確にすることと、自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える姿が見られることを目指す。

そこで、児童の意欲や学習活動が促されるように、長期の0次として日直への『サンキューカード』を書く活動や、日々の連絡帳に〈一言日記〉を書くことを通して、自分の思いや考えを言葉で伝える経験を積み重ねてきた。また、短期の0次としては、自分の伝えたいことを言葉で表現することへの意識が高まるように、これまでの学習や学校生活において見つけた〈思いや考えを表す言葉〉を集めて掲示している『ことばのたからばこ』の活用場面をさらに増すようにした。

そして、書いた文章を活用する実の場として、紹介する文章を賞状形式の用紙に書いて相手へ渡したり、学級の友達と読み合ったりすることとした。こうした、児童の意欲や文章を書く相手意識や目的意識が高まる明確なゴールを示すことで、文章を書く楽しさを感じながら学習活動を進めることができると考えた。

以上のように、本単元においては、児童が楽しく書き進めながら身に付けたい力を自覚する学びを期待する。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。 （確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

○児童の思いや考えに応じた文例の提示

本単元で児童が書く文章では、自分の思いや考えが広がったり、明確になったりすることを目指している。そのため、構成内容や表現が不足していたり、異なったりする例を提示した。不足していると感じる部分や表現の違いに着目しながら、自分の伝えたい思いや考えはどのように書いていきたいかを考え、中の順序や文章全体へのイメージを明確にしていく。これらの認識を促すために、一次の第1時と第2時で既習内容を振り返り、本単元の学習材となる文例は児童と話し合いながら作成し、教師が整えて提示した。

○学習の個性化を支える対話と柔軟な学習過程

自分の伝えたいことに注目しながら書き進めていくため、進捗や構成内容が個別になることも予想される。そこで、児童の進み具合や実態に合わせて、指導・支援を行う。

まず、各自で書くことの活動に取り組める学習材を用意した。取材メモや構成メモのモデル、そして文例や〈ことばのたからばこ〉を必要な時に見られるように掲示しておく。そして、児童同士で伝え合ったり、確認し合ったりして学ぶ、対話による交流も設定する。対話の時間は全体で一斉に行うことで交流した児童以外の学びを知る機会とするが、各自の学習進度、学習到達度等に応じて取り組めるように、交流コーナーを設けたり、前の段階へ立ち戻って考えたりできるようにする。そのため、単元計画は個別の必要に応じて書き進められるように柔軟な学習過程を想定して立てた。

○書いて伝える言葉への意識を高める学習シートと〈ことばのたからばこ〉

本単元での書くことは、自分の考えを表現するのに適した事柄の順序やその基となる観点、それらを表す語や文末表現などについて考え、見つけていくことだと考える。

そこで、題材の設定、情報の収集、内容の検討、構成の検討までは、短い言葉を書いた付箋を張り替えながら文章で伝えたい内容について検討できる学習シートを用いた。推敲では、読み返ししながら確認できるチェックシートを用意した。

また、〈ことばのたからばこ〉を年間通じて活用する。これを、単元や関連する活動の様々な場面でも示し、児童が「どんな言葉を使うとぴったりか探してみよう。」「この言葉がちょうどいいか確かめてみよう。」と自ら言葉に注目できるように、掲示と手元で見られるシートで用意した。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

○実の場の活用・実感としての自己評価

紹介する文章を賞状形式の用紙に書いて相手へ渡したり、学級の友達と読み合ったりすることとした。こうした、児童の意欲や文章を書く相手意識や目的意識が高まる明確なゴールを示すことで、文章を書く楽しさを感じながら学習活動を進めることができると考えた。児童が楽しく書き進めながら身に付けたい力を自覚する学びを経験することや、書いたものへの反応を得たりすることによって「友達と話し合いながら書くと、楽しいな。」「思いや考えを書いて伝えると、読んだ人からこんな反応があるんだ。」「書いてよかったな。」「また書きたいな。」という思いへつながると考える。

6 単元計画（全10時間）

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
0次		・日直に向けて『サンキューカード』を書く。・連絡帳に『一言日記』を書く。 ・週末に日記を書く。 ・帰りの会の『今日のスター』コーナーで、友達のよいところを紹介する。 ・生活科『あしたへジャンプ』で今まででできるようになったことを振り返る。		
一次	1・2 題材の設定	〈ステキ〉を しょうかいする文しょうに ひつようなことを話し合おう。 1 文例を確認し、学習の見通しをもつ。 ○〈ステキ〉とはどんなことが 童が考えた事柄を共有する。 ○『サンキューカード』を発展 させた、〈ステキ〉と考える事 柄を2つ文章で書いて賞状形 式で学級に紹介するゴールを 確認し、学習に見通しを持た せる。 ◆友達のよいところを文章 で紹介するために、事柄の 順序を考える学習への見 通しをもち、進んで書こう としている。〔主体的に学 習に取り組む態度①〕 ★観察、振り返りシート		
		自分がしょうかいする友だちを かくにんしよう。 2 学習計画と自分が紹介する友達を確認する。 ○文例を読み「はじめ・中・終 わり」の構成を確認する。 ○文例は、紹介や順序を表すの に必要な言葉や、組み立てに ついて、既習内容を振り返り ながら考えさせる。 ○学習計画を確かめながら、こ の単元では、座席の前後ペア 児童を紹介することを確認さ せる。		
二次	3・4 情報の収集 5 内容の検討	〈ステキ〉をつたえる じょうほうを あつめよう。 3・4 紹介する友達の〈ステキ〉情報を集める。 ○学級に紹介したい〈ステキ〉情 報を、経験したことやインタ ビュー内容から見つけて集め させる。 ○情報は、付箋に短い言葉や文 で書くことを意識させる。 取材期間：国語科（帯時間）・学級活動（特別活動）に行う。		
		じょうほうを 場めんごとに せいりしよう。 5 取材メモのモデルから内容の検討の仕方を確認し、集めた情報を整理する。 ○集めた付箋を「学習」「生活」「遊び」「その他」の場面ごとのボックスに整理する。また、「思い」が書かれていないボックスにはハートマークを付けた付箋に思いを書いて付け足す。 ◆共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。〔知識・技能①（2）ア〕 ★観察、学習シート、振り返りシート		

6 構成の検討【本時】 7・8 考えの形成・記述	しょうかいする友だちの〈ステキ〉がつたわるように、「中」をきめよう。		
	6 取材メモや文例を基に、「中」の組み立てと、「始め」「終わり」に書くことを決める。	○文例をもとに「始め・中①・中②・終わり」に書くことを確認する。 ○組み立てメモの中①、中②には、「つたえたいこと」を整理ボックスから選び、その理由を書く。次に、「くわしい内よう」を整理ボックスから付箋を選んで貼るように伝える。 ○付箋は全て選ばなくてもよいこと、足りなかったら付け足してもよいことを助言する。 ○組み立てメモが終わった児童から「交流コーナー」へ行き、組み立てメモをお互いに読み合うように指示する。 ○交流の際には、「なぜ、その内容を1番始めに書くのか。」を観点に共有することを確認する。	◆自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って「中」の構成を考えている。〔思考・判断・表現①B（1）イ〕 ★観察、学習シート、振り返りシート
	組み立てメモをもとに、友だちの〈ステキ〉をしょうかいする文しょうを書こう。		
	7・8 構成メモを基に、記述する。	○単元の始めに示した文例と教師が作成した文例を比較する。その際、教師の文例が「始め・終わり」で終わっていたり、不備があったりする文章を示し、「始め・中・終わり」の必要性に気付かせる。 ○事柄の順序を表す「まず、つぎに、このように」等の接続語を適切に使ったり、内容のまとまりが明確になっているかを確認めたりしながら記述させる。	※既習事項から指導評価する。B（1）ウ
9 推敲	文しょうを読みかえして、し上げをしよう。		
	9 文章を読み返し、賞状用紙に書いて仕上げる。	○チェックシートを使って、語と語や文と文との続き方などを意識しながら読み返させる。 ○『ことばのたからばこ』やどの言葉で表現すると、より相手に思いが伝わるか考えさせる。 ○ペア児童と一緒に読み返して確認させる。 ○題名は「○○さんステキしょう」と統一して示すが、「□□しょう」という、文章の内容と合うような題名を考えてもいいと知らせる。	◆文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確認めたりしている。〔思考・判断・表現②B（1）エ〕 ★観察、学習シート、振り返りシート

三次	10 共有	〈ステキしょう〉を読み合って、学しゅうのまとめをしよう。 10 『ステキしょう』を読み合 って、文章のよさや感想を 共有し、学習を振り返る。	○他児童や自分の文章のよさに 気付くように、題材となった 相手児童以外と読み合わせを させる。 ○事柄の順序や言葉に着目させ る。共感したところやよいと 感じた言葉や表現を取り上げ て、理由を考えさせる。 ○自分の文章のよいところにつ いて考えさせる。	◆友達のよいところを文章 で紹介するために、事柄の 順序を考える学習への見 通しをもち、進んで書こう としている。〔主体的に学 習に取り組む態度①〕 ★観察、振り返りシート
実 の 場	活用	・『ステキしょう発表会』をする。 ・『ステキしょう』を読み合ったり、掲示したりする。 ・学級の他の友達や、学年の友達にも賞状を書いて渡す。		

7 本時の学習（6/10時間目）

(1) 本時のねらい

友達のすてきなところを紹介するために、どのようにすると自分の思いや考えが伝わるか考えて、「中」の順序を決める。

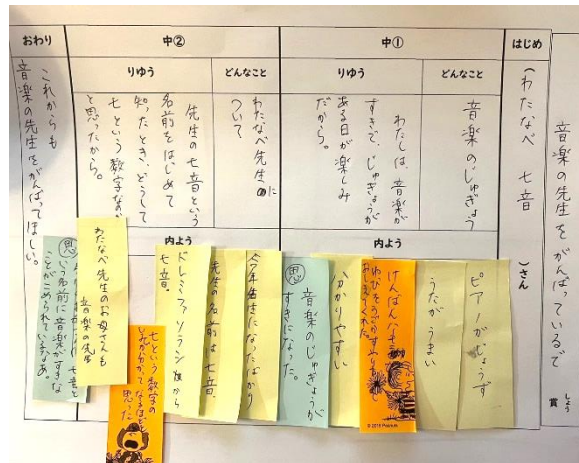
(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 本時のめあてを確認し、学習内容をつかむ。	○本時の学習内容やめあてを意識できるように、前時までの学習を振り返り、既習内容や0次や関連のある活動が生かせることに気付かせる。	
しょうかいする友だちの〈ステキ〉がつつたわるように、「中」をきめよう。		
2 取材メモや文例を基に、どのように「中」の順序を決めていくか全体で確認する。	○文例をもとに「始め・中①・中②・終わり」に書くことを確認する。 ○組み立てメモの中①、中②には、「つたえたいこと」を整理ボックスから選び、その理由を書く。次に、「くわしい内よう」を整理ボックスから付箋を選んで貼るように伝える。	◆自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って「中」の構成を考えている。〔思考・判断①B（1）イ〕 ★取材メモ、組み立てメモ、振り返りシート
3 「中」の組み立てを考えて決める。	○付箋は全て選ばなくてもよいこと、足りなかったら付け足してもよいことを助言する。 ○構成が終わった児童から、交流コーナーへ進み、お互いに出来上がった「組み立てメモ」を読み合うように指示する。	○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手だて</u> ・組み立てメモの内容に合った言葉を考えたり、〈ことばのたからばこ〉から見つけたりして〈ステキしょう〉の題名を考えさせる。
4 「中」の組み立てを確認し、その順序にしたわけを隣同士のペアで交流した後、全体で共有する。	○「なぜ、中をその順番にしたのか。」を観点に交流することを確認する。 ○交流の際、事柄の順序に沿って「中」を構成するには、経験やインタビューなどで得た具体例とその理由、その内容に合った自分の思いを同じまとまりで紹介すると相手に伝わりやすいことに気付かせる。	○ <u>おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手だて</u> ・構成モデルを示し、「中」の順序や理由を考えさせる。 ・取材メモや整理ボックスに立ち戻って、友だちの〈ステキ〉について考えさせる。
5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○めあてに対して以下のことを振り返るように助言する。 ・できたこと ・分かったこと	

しようかいますーステキ賞☆

めあて

しようかいます友だちのよさがつたわるように、「中」のじゅんじよを考えよう。

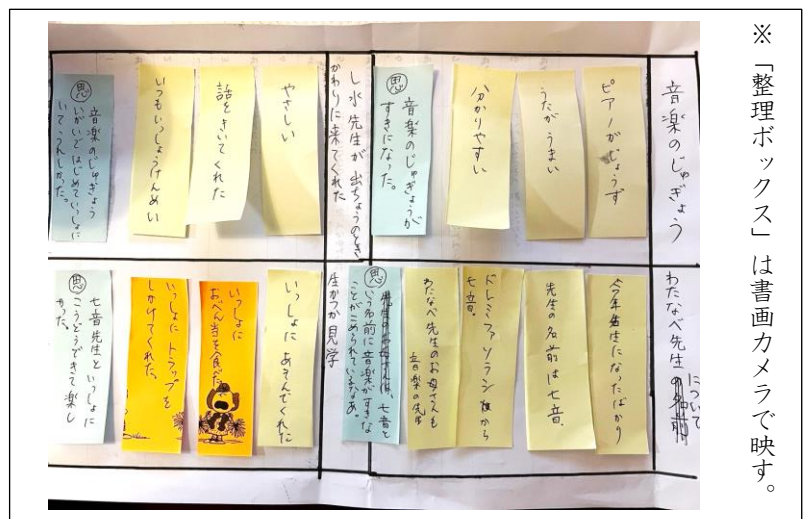


すめ方

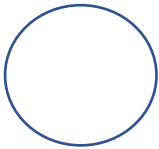
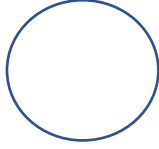
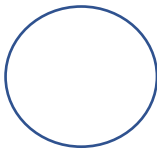
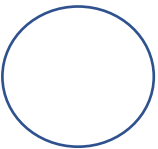
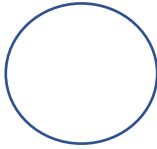
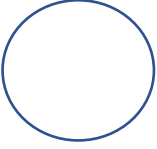
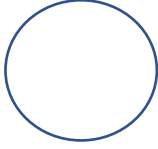
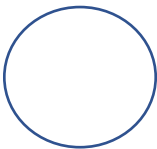
- 一 中①と中②に「つたえたいこと」のふせんをえらんで、理ゆうを書く。
- 二 「くわしい内よう」のふせんをえらんだり、つけ足したりする。
- 三 「おわり」を書く。
- 四 こうりゆうコーナーへ行く。
- ① 出来上がった組み立てメモを読み合う。
- ② 一番さいしよにえらんだ理ゆうをつたえ合う。
- 五 組み立てメモを見直す。↓こうりゆうコーナーへ行く。

気づいたこと

・ステキなところと「中」の内ようが、しっかりとつながっている。
つたえたい思いでじゅんじよをきめるとよい。



※「整理ボックス」は書画カメラで映す。

時	学しゅう計画	がんばりど	ふりかえり
一・二	学しゅうの見通しをもつ。 あい手 さん		
三・四	じょうほうをあつめる。		
五	じょうほうをせい理する。		
六	組み立てメモを作る。		
七・八	書く		
九	見直しをしてから、じょうほうにする。		
十	ペアで読み合う。学しゅうをふりかえる。		
ゴール	「ステキしょう」はっぴょう会をする。		

ステキしょう 青木さんはかっこいい

赤石 そら

ぼくがしょうかいするのは、青木花さんのかっこいいところですよ。

まず、青木さんは、はしるのがはやいです。かけっこでは、いつも真っ先にゴールします。足がタタタタッとうごいてものすごくはやいから、二年生のぜんいんではしっても、一番になりそうだなと思います。

それから、けんばんハーモニカがじょうずです。子犬のマーチのグループがっそう会の時に、すごく楽しそうなかんじでひいていて、びっくりしました。西さんは、

「本当に子犬たちが歩いているみたい。」

と言っていました。じょうずなひきかたを、おしえてもらいたいです。

青木さんは、うんどうがとくいで、けんばんハーモニカもじょうずで、かっこいいなあと思います。これからも、かっこいい青木さんでいてください。

ステキしよう あたたかなみどり川さん

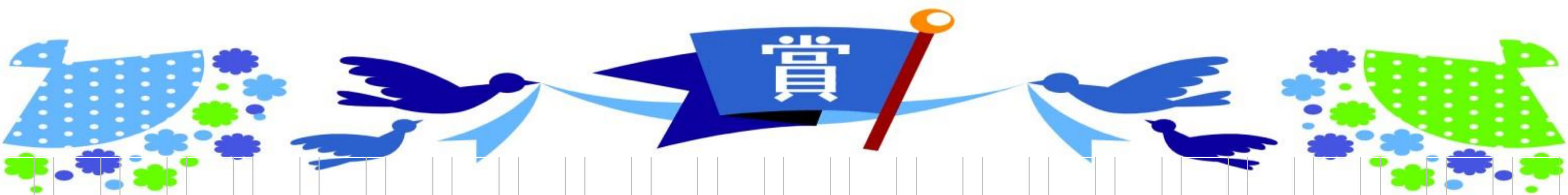
白山 うみ

わたしは、みどり川さんをしようかいます。みどり川さんは、あたたかいところがすてきです。

一つめは、やさしいところです。きゅう食の時に、おみそしるをこぼしてしまったら、すぐにティッシュををもって、来てくれました。わたしがしっぱいしたことなのに、たすけに来てくれたみどり川さんは、やさしくて、親切です。

二つめは、思いやりがあるところです。この間、こうていどころんでしまった一年生を、ほけんしつまでつれていってあげたそうです。知らない子でも、こまっていれば話しかけて、おせわをしてあげられるのは、心がやさしいからだなあと思いました。

このように、親切で心がやさしいみどり川さんは、とてもあたたかい人です。わたしも、みどり川さんのように、だれかがこまっていたら、声をかけてあげたいです。



しょうかいたします！ステキしょう☆

名前（

）

さんステキしょう

しょう

おわり	中②		中①		はじめ
	りゆう	つたえたいこと	りゆう	つたえたいこと	（ （さんのすてきなところをしょうかいたします。
	くわしい内よう		くわしい内よう		

	チェック内よう	自分	となりの 友だち	ほかの 友だち	ほかの 友だち
一	文のいちばんさいしょは、一文字あいていますか。				
二	字はふとく大きくこくかけていますか。				
三	小さい「っ」「ゃ・ゅ・ょ」は、小さくかけていますか。				
四	くっつき「は」「を」「へ」は、正しくかけていますか。				
五	まちがえている字はありませんか。				
六	「ことばのたからばこ」にあることばをつかいましたか。				
七	しょうじょうをわたすあい手の友だちがよろこんでくれそうですか。				
八	友だちのすてきなところが、ほかのみんなにもつたわりそうですか。				

★となりのせきの友だちからのメッセージ

ことばのたからばこ 名前

★じぶんのかんがえたことや、おもったことをつたえるときに、〈ぴったり〉なことばを、さがしてみよう！
☆ほかにも見つけたら、メモしよう。みんなにも、おしえてね。

人物をせつめいすることば

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ○明るい | ○しっかり | ○ゆう気のある |
| ○がまんづよい | ○元氣 | ○いじわる |
| ○しんせつ | ○そっかしい | ○やさしい |
| ○ずるい | ○しょうじき | ○かわいらしい |
| ○ようき | ○りこう | ●ほがらか |
| ●かっぱつ | ●がんばりや | ●いさましい |
| ●まじめ | ●まけずぎらい | ●のんびり |
| ●おこりっぽい | ●すなお | ●いばる |
| ●おとなしい | ●おくびよう | |

気もちをあらわすことば

- | | | |
|----------|----------|---------|
| ○おもしろい | ○おどろく | ○つまらない |
| ○楽しい | ○かんしんする | ○くるしい |
| ○うれしい | ○うらやましい | ○さびしい |
| ○よろこぶ | ○わすれられない | ○かなしい |
| ○気もちがいい | ○気もちがわるい | ○こまる |
| ○あんしんする | ○しんぱいだ | ○くやしい |
| ○へいきだ | ○こわい | ○ざんねん |
| ○すき | ○きらい | ○おそろしい |
| ○さわやか | ○ありがたい | ○てれくさい |
| ○かっとなる | ○ゆかいだ | ○かんしやる |
| ○きょうみをもつ | ○あたまにくる | ○きぶんがいい |
| ○けつりする | ○いがいだ | ○あせる |
| ○まんぞくする | ○けっしんする | ○あきれる |
| ○ふあんだ | ○ほっとする | ○ひっしだ |
| ○きぶんがわるい | ○こころぼそい | ○おちつく |
| ○本氣だ | ○きんちようする | ○つらい |
| ○元氣づけられる | ○じまんする | ○はずかしい |
| ○くやむ | ○まちどおしい | ○じしんがある |
| ○まよう | ○なつかしい | ○てれる |
| ○はらが立つ | ○ワクワクする | ○ドキドキする |

くわしくすることば（しゅうしょく語）

- | | | |
|---------|---------|----------|
| ○きれい | ○目立つ | ○ゝみたい |
| ○りっぱ | ○べんり | ○ゝににた |
| ○おかし | ○かんたん | ○ゝと同じ |
| ○めずらしい | ○むずかしい | ○ゝにそっくり |
| ○くわしい | ○よくある | ○ゝとちがう |
| ○こまかい | ○新しい | ○ゝくらしいの |
| ○人氣のある | ○古い | |
| ●役立つ | ●とくべつ | ●ゝのよう |
| ●大切 | ●美しい | ●ゝと、ひとしい |
| ●ていねい | ●ごうか | ●ゝと、ことなる |
| ●はつきり | ●ゆうめい | ●ゝと、はんたい |
| ●十分 | ●ふ十分 | ●ゝと、ぎやく |
| ●分かりやすい | ●分かりにくい | |

読む人に分かりやすくするためのことばや書き方

- 文の終わりには、「。」を書く。
- 文のきれめには、「」を書く。
- せりふやことばは、「」（かぎかっこ）で、くくろう。
- 話のないようがかわつたら、だんらくをかえよう。
- だんらくのはじまりは、一マス下げて、分かりやすくしよう。
- たてがきの数字は、かんじ（かん数字）で書こう。

文しょうを
書き終えたら、
読みかえして
たしかめよう。

- 「はじめ―中―おわり」の、それぞれに何を書くときか考えて書こう。
- 音や、外国からきたことばなどは、カタカナで書く方が分かりやすいよ。
- （ほかのものにたとえるとき）ゝみたいな、ゝのような、ゝににている、
- （じゅんじよをつたえたいとき）
はじめに、さいしよは、まず、つぎに、それから、そして、…、
終わりに、さいごに。
一つ目は、二つ目は、…。一番目は、二番目は、…。
- （前に書いたことを言いたいとき）この、その、これは、それは、このように、…



